



本校では、「人間性豊かで、力強く未来を切り拓いていく実践力のある児童を育てる。」を教育目標に掲げ、「礼儀正しく、思いやりのある子ども」、「よく考え、よく学ぶ子ども」、「健康で、たくましい子ども」の育成をめざして教育活動を展開しています。また、その一端を各種の学校行事、学年だより、ホームページなどを通じて紹介させていただいているところです。

1月末から3月上旬にかけて、児童及び保護者、教職員、並びに学校評議員を対象として実施いたしました本校の教育活動に対する学校評価の結果及び改善策等につきまして、ご報告いたします。

◆学校評価はなぜ必要か

- 『児童がより良い学校生活を送れるよう学校運営の改善と発展をめざす』ために実施するものです。
- 学校としてめざすべき重点目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等を評価することにより、組織的・継続的に学校運営を改善していきます。

◆本年度の学校評価の進め方

○ 重点目標の達成状況や達成に向けた取組の状況を把握・整理し、これまで進めてきた教育活動その他の学校運営に関する取組が適切かどうかを教職員により自己評価します。また、その結果を踏まえた今後の改善策を検討します。



- 学校評価を実施するために、児童、保護者を対象としてアンケートを行いその結果を活用します。(1月中旬から下旬に実施)
- 児童、保護者を対象としたアンケートの集計結果は1月31日に結果資料をメール(さくら連絡網)にて配信しました。
※ 取組の達成度と工夫・改善の要不要を判断するために各項目を指標値化し、その指標値をもとに4段階で評価を行いました。
- 1月下旬に、コミュニティスクール(学校運営協議会)にて本年度の本校の取組について説明を行いました。
- 学校における自己評価(教職員自己評価)と外部アンケート結果をもとにして改善方法の取りまとめを行い、報告書を作成しました。
- 報告書は美馬市教育委員会に報告をするとともに、保護者の皆様には学校だより(今回の学校だより)で、地域の方々にはホームページ上にて公表します。
- 令和5年度の学校教育目標や重点目標の設定や具体的な取組へ反映させます。



◆学校評価アンケート結果の指標値化

手順

- (1) 最も肯定的な評価であるAを100ポイント、最も否定的な評価であるDを0ポイントとしてポイント化します。すると中間的な評価であるBは100ポイントの2/3のポイント、Cは100ポイントの1/3のポイントとなるので、各評価のポイントは次のようになります。

A=100ポイント B=66.7ポイント C=33.3ポイント D=0ポイント

※ 最も肯定的な評価を満点として、100点満点でそれぞれの評価を点数化したことと同じ意味です。


- (2) 各項目ごとに、回答者全員の評価のポイントの平均を算出し、それをその項目の指標値とします。(小数第二位を四捨五入)

$$(Aの個数 \times 100 + Bの個数 \times 2/3 \times 100 + Cの個数 \times 1/3 \times 100) \div (A+B+C+D)$$

- (3) それぞれの項目について、指標値をもとに4段階で評価します。

評価	指標値	判断
A	73.3以上	とてもよく取組ができている。
B	66.7以上 73.3未満	ほぼ取組ができている。
C	50 以上 66.7未満	工夫・改善が望まれる。
D	50 未満	改善が必要である。

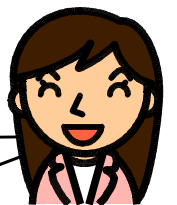
取組に対する達成度を各自が認識し、工夫・改善の必要性を判断した上で、次の取組につなげていくことを目的にしています。改善が必要であると判断された項目について改善策を考え実施していきます。



児童数 141名
保護者回答数 125回答
からの回答をいただきまとめました。
アンケートの結果は 学校の取組の点検に活用させていただきます。またお寄せいただいたご意見は、学校運営に反映させていきたいと考えております。
アンケートへのご協力ありがとうございました。

裏面に、「令和4年度 学校評価の結果と改善策」をまとめています。是非ご覧ください。

今後も保護者の皆様、地域の方々と連携して子どもたちのよりよい成長のために取り組んで参ります。ご支援のほどよろしくお願いいたします。



【岩倉小学校の教育】共に学ぶ喜び、共に成長する喜びを実感できる岩倉小学校 ～学校は、人とつながり、成長する場～
 【学校教育目標】「人間性豊かで、力強く未来を切り拓いていく実践力のある児童を育てる」

【重点目標1】すべての子どもが自分らしく、安心して学校生活を送れるようにする B

いじめを許さない学級・学校 A

- ・「学校へ行くのは楽しい」 児童87.1 保護者83.7
- ・「相談しやすく、適切に対応ができています」 児童70 保護者75.2 職員77.8
- ・「いじめを許さない学級・学校作り」 職員88.9

自分やまわりの人を大切に作る心 B

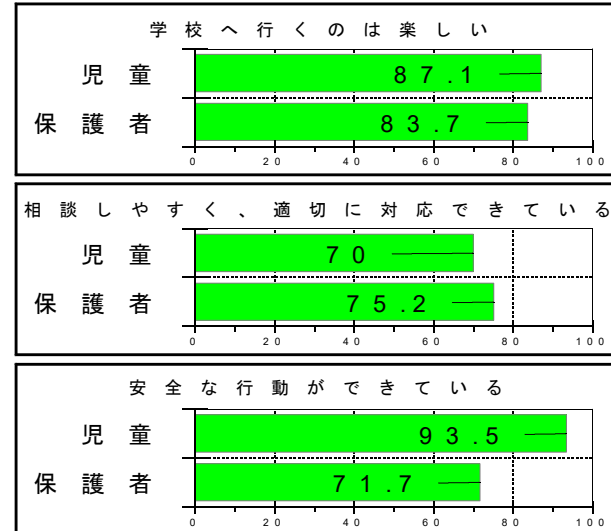
- ・「困っている友だちに声をかけたり助けたりする」 児童79.6
- ・「道徳教育・人権教育の推進」 職員69.5
- ・「あいさつができています」 児童87.3 保護者67.7 職員58.4

健やかな体作り B

- ・「『早寝、早起き、朝ご飯』が定着している」 児童76.1 保護者66.7
- ・「進んで外遊びができています」 児童77.0

安全な学校 A

- ・「感染対策ができています」 児童93.5 職員86.1
- ・「安全な行動ができています」 児童83.7 保護者71.7 職員77.8
- ・「きまりを守って生活できています」 児童83.7 職員66.7
- ・「避難訓練で学んだことが身につけている」 児童89.2
- ・「学校は適切に非常時の対応を行っている」 保護者71.5



・教育活動全体を通して教職員と児童、児童相互の温かく豊かな人間関係を構築する。学校生活アンケートを活用して家庭や地域との連携を図りながら、どんな理由があってもいじめは絶対許さないことを継続して指導する。
 ・道徳教育、人権教育を推進し、一人一人の人権を大切に児童と集団を育てる。教職員の人権感覚を磨き、関係諸機関と連携しながら個別のニーズや相談に対応する。
 ・保健指導や保健だよりを通して家庭との連携を図り、子どもたちの規則正しい生活習慣を定着させる。毎週木曜日の「歩こうデー」による徒歩通学や外遊びを奨励し体力向上を図りながら運動習慣を定着させる。
 ・非常時に迅速な対応ができるよう訓練と安全に関する学習を重ね、自助の能力を高める。

【重点目標2】自分の成長を実感できるようにする B

わかる授業・魅力ある授業 B

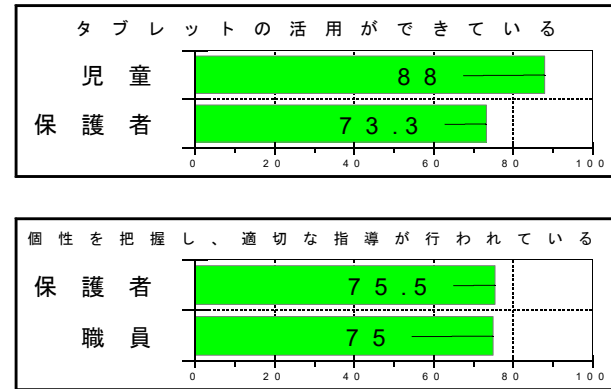
- ・「勉強は楽しい」 児童71.0
- ・「わかる授業、魅力ある授業の実践ができています」 職員69.5
- ・「話し合い活動等の言語活動の充実ができています」 職員63.9
- ・「友だちや先生の話聞いて学習できています」 児童83.2 職員63.9
- ・「学習のねらいやふりかえりができています」 児童74.3
- ・「タブレットの活用ができています」 児童88.0 保護者73.3 職員66.7
- ・「宿題や読書の習慣がついている」 児童83.2 保護者69.9

努力や頑張りをしっかり褒める A

- ・「努力や頑張りを褒める(認めてもらえる)」 職員77.8 児童86.7
- ・「学校のことや将来の夢について話す」 保護者72.3

個々の実態やニーズ A

- ・「子どもたちの個性を把握し、適切な支援をしている」 保護者75.5 職員75
- ・「関係諸機関と連携しながら個に応じた支援を行っている」 職員88.9



・一人一台タブレットやICT機器を用いて、個に応じた効果的な指導と主体的な学びを推進する。様々な学習において話し合いの場面を設定し、表現する力を伸ばす。学習のめあてや流れを明確にし、学習の振り返りを行うことで学びの成果が実感できるようにする。
 ・学校全体でポジティブな行動支援に取り組み、児童の自己肯定感を高める。個々の自己実現に向けて積極的な生徒指導を行う。
 ・関係諸機関と連携して児童一人一人の特性を理解し、教育的ニーズを把握して発達や個性に応じた適切な支援を行う。

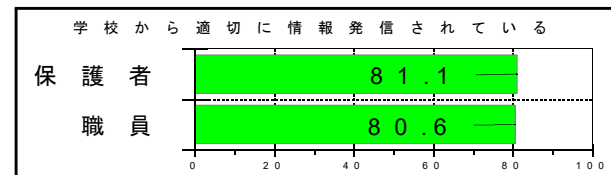
【重点目標3】地域社会全体で子どもの学びや成長を支援していく B

学校からの発信 A

- ・「学校からの情報発信が適切に行われている」 保護者81.1 職員80.6
- ・「学校からの文書に目を通して」 保護者79.5

家庭・地域・関係諸機関との連携 B

- ・「適切な内容、時期に学校行事が行われている」 保護者70.7
- ・「子どもや保護者の相談について適切に対応している」 児童70.0 保護者75.2 職員77.8
- ・「関係諸機関と連携して個に応じた支援を行っている」 職員88.9



・ホームページや学級だよりを通じ、教育方針や教育活動の様子を分かりやすく積極的に発信する。
 ・学校、地域、家庭が連携した教育活動を通して、地域の教育力を高め、地域とともにある学校を推進する。学校経営課題についても改善に向けて関係諸機関、地域、保護者と連携して取り組む。